

ウイльта語北方言テキスト：お母さんのこと*

山田 祥子

A Text in the Northern Dialect of Uilta: Mother

Yoshiko YAMADA

要旨：本稿では、2010年にエレナ A. ビビコワ（Elena Alekseevna BIBIKOVA：1940年生まれのウイльта女性）から筆者が採録したウイльта語北方言による語りをテキスト化し、訳注を付けて紹介する。語りは、語り手自身の母アンナ B. ボリソワ（Anna Borisovna BORISOVA：1917-1961）のウイльта名や人柄を主題とする、1950年前後の思い出話とみられる。母は「フムラーンジ」および「コルゴルジ」というウイльта名を持ち、活発でよく働く、強い女性だったという。ビビコワは、その母の手仕事を手伝いながら、切り紙文様や刺繍などの伝統的な技術を身につけた。

キーワード：ウイльта語 ツングース諸語 サハリン 先住民 テキスト

1. はじめに

1.1 本テキストの背景

ウイльта語は、サハリン（樺太）島の先住民族であるウイльта Uilta（旧称オロッコ Orok）の固有の言語である。ツングース諸語の一つで、そのなかでもナーナイ語・ウルチャ語とともに第 III 群に分類される（Ikegami 1974 [2001: 395]）。

サハリンエナジー社のウェブサイトによると、ロシア連邦サハリン州は 2020 年 1 月現在州内に居住するウイльтаの人口は 481 人と報告した（Sakhalinskaja Energija 2022）¹。日常会話が全般にロシア語で行なわれるなかで、ウイльта語を話することができるのは年齢 70 代以上のごく数名とみられる。この言語状況により、ウイльта語は近い将来の消滅が危ぶまれている。

ウイльта語の方言は、サハリン北東部のワール Val を中心とする地方で話される北方言と、中東部のポロナイスク Poronajsk（旧、敷香）を中心とする地方で話される南方言の二つに分けられる（池上 1994 [2001: 247-248]）。前者は 20 世紀前半（1905～1945）にロシア（ソ連）の支配を受けた北のグループ（ウイльта語で *doronneeni*）の話す方言、後者は同時期に日本の支配を受けた南のグループ（ウイльта語で *suunneeni*）の話す方言である。本稿はそのうち

¹ 2022 年 11 月 30 日現在、サハリン州の公式サイトにアクセスできない。そのため、ここではあえてサハリンエナジー社（石油・天然ガスプロジェクト「サハリン 2」のオペレーター会社で、近年のサハリン先住民の生活や文化振興を支援する「サハリン先住民支援プラン」（英名：Sakhalin Indigenous Minorities Development Plan）を主宰している）のウェブサイトから引用する。

の北方言（北のグループの話す方言）による語りを紹介するものである。

ウイльтаは伝統的に、サハリンの中東部から北東部で、飼育するトナカイの群れとともに季節移動をしながら、漁労、海獣・陸獣狩猟、採集、交易などにより生活していた。南のグループは 20 世紀前半の日本支配下で集住化や同化政策を受け、1930 年前後にはトナカイの個人飼育が消滅したといわれる（池上 1997a: iii）。他方、北のグループでは 1925 年のソ連成立にともない、社会主義体制下で生業活動の集団化が進んだ（Roon 1996: 159-160）。ウイльтаは、19 世紀後半からサハリン北部に居住するエヴェンキと共同して、トナカイ飼育業を営むコルホーズやソフホーズを組織した。結果として、北のグループではトナカイ飼育というウイльтаの伝統的な生業が（集団化による変容はあったものの）継承され、ソ連崩壊後も規模を変えて続いている。

本稿で紹介するテキストは、ソ連時代のサハリン北東部でトナカイ飼育業を営むウイльтаの家庭に生まれた女性エレナ A. ビビコワが、その生母であるアンナ B. ボリソワ（1917-1961）の名前や人柄について語った内容を紹介するものである。時代背景や、後述するビビコワの経歴に鑑み、およそ 1950 年前後の思い出話と推定される。

筆者は、ウイльтаでロシア語への言語交替が本格的に進んだのは 1960～80 年代だったと考察している（山田 2013: 39）。1960～80 年代には生業活動の再組織化にともない女性たちの村への集住が強制され、妻は村に、夫はトナカイを放牧する山野のキャンプ地に、子どもたちは寄宿学校にと、家庭が分断された（Roon 1996: 167）。その結果、家庭内の言語や文化の継承が途絶えてしまったと考えられる。こうした歴史的な流れを踏まえると、1950 年前後の状況を回顧する本テキストは、ウイльтаが家族でトナカイ飼育を営み、家庭内で言語や文化が継承された最後の時期のようすを口承した資料ともいえる。

1.2 語り手について

以下、回想録（Bibikova 2009、風間 2011: 66-72）、および本人からの聞き取りをもとに、語り手の経歴を紹介する。

エレナ A. ビビコワ（Elena Alekseevna BIBIKOVA）は、1940 年にサハリン北東部のダギ Dagi 近くのトナカイ飼育地でウイльтаの家庭に生まれた。父はゲーッタ氏のアレクセイ A. オシポワ（Aleksej Andreevich OSIPOV）、そして母はヌーチ・トリサ氏生まれのアンナ B. ボリソワ（Anna Borisovna BORISOVA）だった。

1948 年にノグリキ Nogliki の寄宿学校に入りロシア語を話すよう教育されたが、長期休暇で帰省するたび家庭内ではウイльта語で話したという。帰省中に母の手仕事を手伝って刺繍をしていたことが、本テキストで語られる。

1961 年に教員養成学校を卒業、1970 年にはサハリンを離れてウラン・ウデ Ulan-Ude の教育大学に入学しロシア語・ロシア文学を専攻、後に学位を修得した。1978 年に帰郷し、ノグリキの図書館などで働いた。

1990 年頃、ウイльта語調査のためにサハリンを訪れた池上二良（1920-2011；北海道大学

名誉教授)と知り合い、その調査に協力したことをきっかけに、ウイльтаの言語・文化に強い関心を持つ。池上の指導のもと、他の話者や研究者と協力して、ウイльта語の教科書 (Ikegami et al. 2008) を編集した。

近年、ウイльтаの文化や言語の保存を助ける教育家として、年齢 80 を過ぎてなお精神的に活動している。2022 年 11 月現在、ポロナイスク在住。

2. 凡例

2.1 採録方法

本テキストでは、2010 年 5 月 22 日に E. A. ビビコワから筆者が録音した語りを紹介する。

録音は、語り手が当時居住していたノグリキのアパートで行った。そのアパートには当時、家主のビビコワのほか、友人のエカチェリーナ A. ボリソワ (Ekaterina Afanas'evna BORISOVA: エヴェンキ女性) と採録者 (山田) が逗留していた²。ビビコワとボリソワの二人は、ビビコワの娘が経営する商店で売のための土産物製作を手伝っており、その日は自宅のリビングで刺繍や縫製を分担して行っていた。サハリンやアムール川流域の先住民に特徴的な渦巻き文様の刺繍をしながら、ビビコワがおもむろに自分の母親のことをウイльта語で話し始めたので、許可を経て IC レコーダーで録音した。

ビビコワの語りのあいだ、採録者 (山田) が意識してウイльта語で相槌を打つようにした。一般に、いかに流暢な話し手であっても、一人きりで延々と話し続けるのは難しい。ビビコワはウイльта語北方言の母語話者で流暢な話し手だが、通常はロシア語で話している。そのため、一人きりで話させると無意識的にロシア語に切り替わってしまうということがしばしばあった。同じ部屋で作業していたボリソワはエヴェンキ語話者でウイльта語はわからない。そこで、山田が意図的にウイльта語の応答や質問をして、ウイльта語の語りが続くように働きかけた。山田のウイльта語が不自然だった場合は、ビビコワがそれを訂正してから語りを先に進めた。

録音後、山田がロシア字式表記で文字起こしを行い、それをパソコン画面でビビコワに確認してもらいながら、ロシア語で訳付けをした。

2.2 表記と分析

本テキストでは、1 行目に録音されたウイльта語の音韻表記、2 行目にその基底形、3 行目に英語グロス、4 行目に日本語の意識を記す。

1 行目および 2 行目では、ローマ字式音韻表記 (母音/a, ə, o [ɔ], ɐ [o, ɔ], u, i, e/, 子音/p, b, t, d, ʧ[ʃ], ʤ[dʒ], k, g[g, ɣ~ɣ], m, n, ɲ, ŋ, l, r, s, x, w, j/) によってウイльта語を転記する。ローマ字式の音素目録は池上 (1997a: xi-xvi) にもとづく。傍点 (…) は、語り手がことばに詰まった部分である。2 行目で接尾辞や語尾の基底形を表わす際は、母音調和により交替する母音を A で表わす。ロシア語の単語が挿入された場合は、1 行目の音韻表記で該当箇所をイタリック

² E. A. ビビコワ (ウイльта)、E. A. ボリソワ (エヴェンキ)、筆者が同居した経緯や、ボリソワの経歴等については山田 (2021b) で紹介したので、ここでは詳述しない。

で区別し、2行目の基底形を[]で括る。4行目の意識は、語り手であるビビコワのロシア語訳を参考に山田が作成した。

採録者である山田の発話は通し番号の後に[YAMADA]を付けて区別し、基底形とグロスは省略する。

3. ウイлта語北方言テキスト

- (1) **xumuraanji**
xumuraanji
Khumuranji
フムラーンジ
- (2) [YAMADA] **sii ənimbi gəlbuni bičči...** あなたの母の名前が…
- (3) **bii ənimbi - sii əničči.**
bii əni(n)-bi sii əni(n)-si
1SG.NOM mother-1SG 2SG.NOM mother-2SG
[山田のウイлта語の人称表現を訂正して]「私の母」 — 「あなたの母」
- (4) [YAMADA] **sii əničči. sii əničči gəlbuni - xumuraanji.** [訂正を受けて言い直し]
「あなたの母」。あなたの母の名前が、フムラーンジ。
- (5) **xumuraanji.**
xumuraanji
Khumuranji
フムラーンジ
- (6) **xumuraanji - a esshjo gəlbulu biččini.**
xumuraanji [a] [esshjo] gəlbulu bičči(n)-ni
Khumuranji and further name-PROP COP.PRF.P-3SG
フムラーンジ、そして、他にも名前があった。
- (7) **noomboni čipaalinnee waalunneeni**
noomboni čipaali-nnee waalu-nnee-ni
3SG.ACC altogether-PERS Val-PERS-3SG
gəlburi-pukkil biččiči korgolji.
gəlburi-bukki-l bičči(n)-či korgolji
give.a.name.to-HBT-PL COP.PRF.P-3PL Korgolji
ワールじゅうの人々が彼女をコルゴルジと呼んでいた。
- (8) **korgolji ... eto anu nimṇaa, nimṇaadu**
korgolji ... [eto] anu nimṇaa nimṇaa-du
Korgolji it FIL recited.story recited.story-DAT

- | | | | | |
|--|-------------|------------|---------------|--|
| | bii, | anu | əəktə. | |
| | bi+ri | anu | əəktə | |
| | COP+IM.P | FIL | woman | |
- コルゴルジ、これは語り物³に出てくる女性の名前だ。
- (9) [YAMADA] **aa, nimɣaa!** ああ、語り物！
- (10) **ii.**
ii
yes
そうよ。
- | | | | | |
|------|-------------|--------------|------------|-----------------------|
| (11) | tari | əəktə | jiŋ | uɪlələ. |
| | tari | əəktə | jiŋ | uɪlə-lA |
| | that | woman | very | work-ADJ ⁴ |
- 彼女はとても働き者。
- | | | | | |
|------|------------------|---------------|-----------------|---------------|
| (12) | xaiwaddaa | čipaal | ulingaʃi | toini, |
| | xai-bA=ddAA | čipaali | ulinga-ʃi | to+ri-ni |
| | what-ACC=EMPH | altogether | good-INS | do+IM.P-3SG |
- kusalʃi.**
kusal-ʃi
quick-INS
なんでも上手に、手ばやくこなす。
- | | | | | | |
|------|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| (13) | čomi | ənəkəmbə | taraŋači | umbukkil | biččiči. |
| | čomi | ənəkə(n)-bA | taraŋaci | un-bukki-l | bičči(n)-či |
| | therefore | mom-ACC | like.that | say-HBT-PL | COP.PRF.P-3PL |
- だから、お母さんのこともそのように（コルゴルジと）呼んでいた。
- | | | | | |
|------|--------------------|---------------|-------------------|-------------------|
| (14) | xusəsəldəə, | əə əə, | xusəsəldəə | əkkəsəldəə |
| | xusə-sAl=(d)dAA # | # | xusə-sAl=(d)dAA | əkkə-sAl=(d)dAA |
| | male-PL=EMPH # | # | male-PL=EMPH | female-PL=EMPH |
- | | | | | |
|--|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------------|
| | xumuraan... | korgolʃi | gəlburi ... | gəlburiɸukkil |
| | # | korgolʃi | # | gəlburi-bukki-l |
| | # | Korgolʃi | # | give.a.name.to-HBT-PL |

³ ウイルタ語南方言で *niɣmaa* (ニグマー) と呼ばれる口承文芸のジャンル。北方言では音位転倒して *nimɣaa* (ニムガー) という。その一つでシーグーニという英雄を主人公とする語り物は、ウイルタ語南方言の話者(佐藤チヨ)から池上二良によって採録され、ビビコワの露訳をつけて、佐藤ほか(2014)として刊行された。「シーグーニ物語」と呼ばれるその語り物のなかに *korgoljok* 「コルゴルジョク」という名の使用人が登場する。有能で強い人物として語られている(佐藤ほか 2014: 67-68)。(8)~(14)は、ビビコワの母の名「コルゴルジ」が語り物の登場人物「コルゴルジョク」に由来することを説明している。

⁴ 動詞語幹 *uɪlə-*「働く」に派生接辞 *-lA* がついたものと分析することができる。同様の形式は今日の北方言で他にも *tuksala* (*tuksa-*「走る」+*-lA*)「よく走る」、*dəptulə* (*dəptu-*「食べる」+*-lA*)「よく食べる」、*jaajala* (*jaaja-*「歌う」+*-lA*)「よく歌う」など生産的に用いられ、形容詞的に用いられる。

biččiči, **xəwəččukkil.**

bičči(n)-či xəwə-či+bukki-l

COP.PRF.P-3PL call-ITER+HBT-PL

男性も、えーと、男性も女性もフムラーン…、コルゴルジと名付け…、名付けていた、呼んでいた。

- (15) **jiŋ ... jiŋ jiŋ inəmuuli biwukki**
 jiŋ jiŋ jiŋ inəmuuli bi-bukki
 very very very amusing COP-HBT

biččinee.

bičči(n)-ni+kA

COP.PRF.P-3SG+EXC

とってもおもしろい人だったな。

- (16) **jumoristka, kak govorjat.**
 [jumoristka] [kak] [govorjat]
 humorist how they.say

ユーモリストね、言うならば。

- (17) [YAMADA] **jumoristka.** ユーモリストですか。

- (18) **aga.**

[aga]

INTJ

そうそう。

- (19) [YAMADA] **tarigdaa a...** それで、その…。

- (20) **ulaaʃi jiŋ suddəəkk⁵ tuksauwukki**
 ulaa-ʃi jiŋ suddəəkki tuksa+bu-bukki
 reindeer-INS very terribly run+TR-HBT

biččini.

bičči(n)-ni

COP.PRF.P-3SG

トナカイで（トナカイに乗って）、ものすごく上手に走ったものだった。

- (21) [YAMADA] **tarigdaa ərəŋəci ... sii ənəccəi ərəŋəci biččinii.** それでこのように…、
 あなたのお母さんはこのようだったんですね。

- (22) **tamačee biččini, ii.**
 tamačee bičči(n)-ni ii
 like.that COP.PRF.P-3SG yes

〔山田のウイлта語を訂正して〕「そのよう」だったのよ、ええ。

⁵ ここでは語末の母音 i が聞こえない。

- (23) [YAMADA] **tamačee biččini.** [訂正を受けて言い直し]「そのよう」だったの
ですか。

- (24) **anu tugduləkki poezd tugduləmbəni ulaaʃi**
anu tugdulə-kki [poezd] tugdulə(n)-bA-ni ulaa-ʃi
FIL bridge-REF.PRL train bridge-ACC-3SG reindeer-INS
tuksaumi ʔənnə... anu... dawwaukki
tuksa+bu-mi # anu dawa+bu-bukki
run+TR-SIM.CVB # FIL go.across+TR-HBT
biččini.
bičči(n)-ni
COP.PRF.P-3SG

橋を、鉄橋を、トナカイを走らせて渡ったものだった。

- (25) **ulaaʃi, ii.**
ulaa-ʃi ii
reindeer-INS yes
トナカイでね、ええ。

- (26) **poonilni əkkəsəl xələŋʃiči waa... ulaadu,**
poonilni əkkə-sAl xələn-ri-či # ulaa-du
the.other female-PL get.out-IM.P-3PL # reindeer-ABL
i mituməri čaa tugduləkki
[i] mitu-mAri čaa tugdulə-kki
and crawl-SIM.PL.CVB that(OBL) bridge-REF.PRL
ʔənnəči.
ʔənə+ri-či
go+IM.P-3PL

他の女たちはトナカイから降りて、這って、その橋を通って行く。

- (27) **a nooni ulaaʃi təəgəčči**
[a] nooni ulaa-ʃi təə-kAčči
and 3SG.NOM reindeer-INS sit-PRF.CVB
tuksaum dawwaukki biččini.
tuksa+bu-mi dawa+bu-bukki bičči(n)-ni
run+TR-SIM.CVB go.across+TR-HBT COP.PRF.P-3SG

でも彼女はトナカイに乗って走らせて渡ったものだった。

- (28) **məənə ulaalbi məənə ətəxxini.**
məənə ulaa-l-bi məənə ətəxu+ri-ni
REF.NOM reindeer-PL-REF REF.NOM take.in.charge+IM.P-3SG
自分のトナカイを、自分で世話する。

- (29) **zaprijagat'** **kak?**
 [zaprijagat'] [kak]
 harness how
 「(トナカイを) つなぐ」 って何て言うんだっけ?⁶
- (30) **shustraja** **mama** **byla.**
 [shustraja] [mama] [byla]
 smart mom was
 活発な母さんだった。
- (31) **xaiwaddaa** **čipaal** **ǰiŋ** **kusalǰi**
 xai-bA=ddAA čipaali ǰiŋ kusal-ǰi
 what-ACC=EMPH altogether very quick-INS
toini.
 to+ri-ni
 do+IM.P-3SG
 何でもすべてとても手早くやる。
- (32) [YAMADA] **xm, uilələ.** なるほど、働き者ですね。
- (33) **uilələ** **biččini.**
 uilə-lA bičči(n)-ni
 work-ADJ COP.PRF.P-3SG
 働き者だった。
- (34) **abdumba** **ǰiŋ** **ulinga** **andusini,** **kusalǰi.**
 abdu(n)-bA ǰiŋ ulinga andu-si-ni kusal-ǰi
 goods-ACC very good make-IM.P-3SG quick-INS
 物をととても上手に、手ばやく作る。
- (35) **uttalba** **xaiwadd⁷** **ǰiŋ** **bara** **balabalǰi**
 utta-l-bA xai-bA=ddaa ǰiŋ bara balabalǰi
 boots-PL-ACC what-ACC=EMPH very many quickly
ulpini.
 ulpi+ri-ni
 sew+IM.P-3SG
 靴でもなんでもとてもたくさん、手早く縫う。
- (36) [YAMADA] **ii, uttalba.** そうですか、靴を。

⁶ 「(トナカイを) つなぐ」という関連で話を続けたかったが、ウイлта語を思い出せず、同じ部屋にいたエヴェンキ女性の E. A. ボリソワに尋ねた。しかし、ボリソワはウイлта語を話さないのわからなかった。

⁷ xaiwaddaa (<xai-bA=ddAA <what-ACC=EMPH)の最後の二重母音 aa が発音上脱落したとみられる。(34)も同様。

- (37) **ii, xaiwadd čipaal ulpukki**
 ii xai-bA=ddaa čipaali ulpi+bukki
 yes what-ACC=EMPH altogether sew+HBT
biččini.
 bičči(n)-ni
 COP.PRF.P-3SG
 何でも縫ったものだ。
- (38) **mimbee xalaččini, skooladu xalaččini,**
 mimbee xalači+ri-ni skoola-du xalači+ri-ni
 1SG.ACC wait+IM.P-3SG school-ABL wait+IM.P-3SG
tuupuləlbə girrini.
 tuupulə-l-bA giri+ri-ni
 shoe-PL-ACC cut.clothing.patterns+IM.P-3SG
 私を待って、寄宿学校から（帰るのを）待って、靴の型を裁っている。
- (39) **barambaa girigačči, xalaččini**
 bara(n)-bA+kAA giri-kAčči xalači+ri-ni
 a.lot-ACC+EXC cut.clothing.patterns-PRF.CVB wait+IM.P-3SG
mimbee.
 mimbee
 1SG.ACC
 たくさん裁って、私を待っている。
- (40) **bii skooladu issiwi, pastuukitai.**
 bii skoola-du isu+ri-bi pastuuki-tAi
 1SG.NOM school-ABL come.back+IM.P-1SG pasture-DIR
 私が寄宿学校から遊牧地（トナカイを放牧するキャンプ地）へ帰る。
- (41) **uzhe məənə irgaa irgalba andusiwi**
 [uzhe] məənə irga+bA irga-l-bA andu-si-bi
 already REF.NOM pattern+ACC pattern-PL-ACC make-IM.P-1SG
əɾəŋəči.
 əɾəŋəči
 like.this
 （そしたら私は）もう自分で文様をつくる、このようにね。[図1参照]
- (42) **taapočikalda čipaal anniwi, əə...**
 taapočika-l=ddaa čipaali anu+ri-bi #
 indoor.shoe-PL=EMPH altogether FIL+IM.P-1SG #

anniwi **purriwi** **čakki,**
 anu+ri-bi puri+ri-bi čakki
 FIL+IM.P-1SG write+IM.P-1SG that.PRL
sai ... sajjiwi **čakki.**
 # sai+ri-bi čakki
 # draw+IM.P-1SG that.PRL
 室内履きにもぜんぶあれする、そこに書く、
 そこに描く。

- (43) **xooni buu**
 xooni buu
 how 1PL.NOM
toččipuka?
 to+či(n)-pu=kA
 do+PRF.P-1PL=WHQ
 どうしたんだっけ？

- (44) **uččeewi uta ... uččeewi, net, luchshe**
 # # # [net] [luchshe]
 # # # no better
skoree sajjuu ... karandash delaet, sajjuukki
 [skoree] # [karandash] [delaet] sai+bukki
 rather # pencil does draw+HBT
biččini.
 bičči(n)-ni
 COP.PRF.P-3SG

ウッチェーウィ、ウタ…いやそうじゃなくて、描く、鉛筆でやることだから、
 (文様を線で) 描いたものだ。

- (45) **čowočči čawa solkojjeewi, barambaa**
 čowočči čawa solko-dA+ri-bi bara(n)-bA+kAA
 after.that that.ACC silk-VLZ+IM.P-1SG a.lot-ACC+EXC
tselij ilaandoo taapočii ... taapočikalba.
 [tselij] ilaandoo # taapočika-l-bA
 whole thirty # indoor.shoe-PL-ACC
 その後、それに刺繍した、たくさん、全部で 30 足の室内履きを。

- (46) [YAMADA] **ilaandoo!** 30 足！

- (47) **čawa, nooni, bii solkojjeewi,**
 čawa nooni bii solko-dA+ri-bi
 that.ACC 3SG.NOM 1SG.NOM silk-VLZ+IM.P-1SG

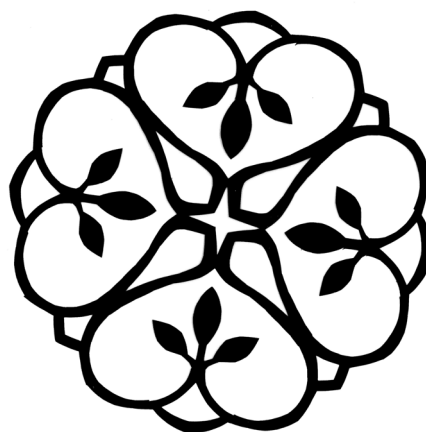


図 1 : E. A. ビビコワが制作した切り紙文様 (ウイльта語で irga) の一例。これを型紙として布や皮などに文様を写し、刺繍する。

- | | | | | |
|--|--|-------------------------|----------------|--|
| | nooni | <i>katjaŋači</i> | ulpini. | |
| | nooni | [katja]-ŋAči | ulpi+ri-ni | |
| | 3SG.NOM | Katja-LIKE | sew+IM.P -3SG | |
| | それを彼女 [母] が…、私が刺繍して、彼女 [母] がカーチャのように縫い合わせる。 ⁸ | | | |
- (48)
- | | | | |
|------------|---------------------|--------------|-------------------------|
| bii | solkoŋŋeewi, | nooni | <i>katjaŋači</i> |
| bii | solko-dA+ri-bi | nooni | [katja]-ŋAči |
| 1SG.NOM | silk-VLZ+IM.P-1SG | 3SG.NOM | Katja-LIKE |
- ulpini.**
ulpi+ri-ni
sew+IM.P -3SG
私が刺繍して、彼女 [母] がカーチャのように縫い合わせる。
- (49)
- | | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------------|----------------------|-------------------------|
| barambaa | <i>do</i> | <i>tridtsatii</i> | <i>shtuk,</i> | <i>ilaandoo.</i> |
| bara(n)-bA+kAA | [do] | [tridtsatii] | [shtuk] | ilaandoo |
| a.lot-ACC+EXC | up.to | thirty | item | thirty |
- たくさん、30 足も。
- (50)
- | | | | | | |
|-------------|-----------------|-----------------------|-------------------|------------------|------------------------|
| čawa | orogŋini | <i>pil'tun</i> | <i>gde</i> | <i>my</i> | <i>byli-to.</i> |
| čawa | orok-ri-ni | pil'tun | [gde] | [my] | [byli-to] |
| that.ACC | take-IM.P-3SG | Pil'tun | where | we | were-PTCL |
- それを、ピリトゥンに持って行った、このあいだ私たちが行ったところね。⁹
- (51)
- | | | | | | |
|--------------------|-------------|-------------|------------|--------------|------------------------|
| piləttutəi, | čadu | bara | ŋiŋ | daaji | <i>posjolok</i> |
| piləttu-tAi | čadu | bara | ŋiŋ | daaji | [posjolok] |
| Pil'tun-DIR | that.DAT | a.lot | very | big | village |
- biččini,** **daaji** **gasa** **biččini.**
bičči(n)-ni daaji gasa bičči(n)-ni
COP.PRF.P-3SG big village COP.PRF.P-3SG
ピリトゥンへ、そこにはたくさんのとても大きな村があった。
- (52)
- | | | | | | |
|------------------|---------------------|---------------|--------------|-------------|-----------------|
| nuutowodu | <i>tozhe</i> | ba ... | daaji | gasa | biččini. |
| nuutowo-du | [tozhe] | # | daaji | gasa | bičči(n)-ni |
| Nutovo-DAT | also | # | big | village | COP.PRF.P-3SG |
- ヌトヴォにも大きな村があった。

⁸ Katja 「カーチャ」は同居人のエカチェリーナ A. ボリソワの愛称（山田 2021b 参照）。録音時ちょうど土産物の製作のため、ビビコワが刺繍して、ボリソワが縫製する作業をしていた。

⁹ これを録音する一週間ほど前にビビコワと山田はピリトゥン湾岸のトナカイ飼育地を訪問していた。「このあいだ私たちが行ったところ」というのはその意味。

- (53) **čala xudasimi pulipukkil biččiči.**
 čala xudasi-mi puli-bukki-l bičči(n)-či
 that.LOC trade-SIM.CVB walk-HBT-PL COP.PRF.P-3PL
 そこで（人びとはよく物を）売り歩いていた。
- (54) **xudassiči gumaaskaži dæppee barambaa**
 xudasi+ri-či gumaaska-ži dæppi+bA bara(n)-bA+kAA
 trade+IM.P-3PL money-INS food+ACC a.lot-ACC+EXC
gažini, i anutai vot gde my byli
 ga-ri-ni [i] anu-tAi [vot] [gde] [my] [byli]
 buy-IM.P-3SG and FIL-DIR PTCL where we were
čala orogžini.
 čala orok-ri-ni
 that.LOC take-IM.P-3SG
 物を売って得るお金で食べ物をたくさん買う、ほら私たちがこのあいだ行った、あそこへ持って行って。
- (55) **ii.**
 ii
 yes
 そう。
- (56) **a buu ilaa puril, ilaa puril.**
 [a] buu ilaa puril ilaa puril
 and 1PL.NOM three children three children
 私たちは三人兄弟だった。
- (57) **sem'ja byla bol'shaja, amimbi ənimbi əə**
 [sem'ja] [byla] [bol'shaja] ami(n)-bi əni(n)-bi #
 family was big father-1SG mother-1SG #
anu, aagbi i ilaa puril, əkkə puril.
 anu aak-bi [i] ilaa puril əkkə puril
 FIL uncle-1SG and three children female children
 家族は大きくて、父、母、伯父、そして三人の子ども、娘たち。
- (58) **dazhe ne ilaa, a nučiikə biččini esshjo**
 [dazhe] [ne] ilaa [a] nučiikə bičči(n)-ni [esshjo]
 even not three and small COP.PRF.P-3SG further
godovalyj, vot buu biwukki biččipu
 [godovalyj] [vot] buu bi-bukki bičči(n)-pu
 yearling PTCL 1PL.NOM COP-HBT COP.PRF.P-1PL

čadu.

čadu

that.DAT

三人じゃない、もう一人小さな、ひとつ下の弟¹⁰がいて、私たちはそうして暮らしていた。

(59) [YAMADA] ii, maŋga, maŋga əəktə biččini. そう、強い女性だったのですね。

(60)	ii,	maŋga	əəktə	biččini.
	ii	maŋga	əəktə	bičči(n)-ni
	yes	strong	woman	COP.PRF.P-3SG

そうだ、(母は) 強い女性だった。

4. 考察

ここまで、筆者が 2010 年に E. A. ビビコワから採録したウイльта語北方方言テキストを紹介した。以下では、テキストの分析をとおしてみえてきた結果を、言語・文化について述べる。

4.1 言語についての考察

言語について、まず確認したいことは、本テキストは語り手が自宅のリビングで刺繍をしながら脳裏によみがえった母親の記憶を言葉にした、ごく自然な談話であるという点である。この点は、筆者がこれまでに採録・テキスト化してきた民話の語り（山田 2015 など）や、あらかじめ筆記した原稿の読み上げ（山田 2016b, 2021a など）と異なる。ビビコワをはじめ少数言語の保存に責任感をもって取り組む伝承者（話者）は規範意識が強い傾向があるように思うが、手作業のかたわら口からこぼれるように発せられた談話を記録した本テキストは、規範意識の「しぼり」からある程度解放されているようにみえる。ロシア語が多く混ざるのは近年のウイльта語の状況を映しており、言い誤りや言いよどみが含まれたり、聞き手（本テキストの場合は山田）の相槌で先に進んだりすることは、談話として一般的にごく自然な現象であると思う。

自然な語りのなかに、この言語の、この方言ならではのの特徴もみえてくる。例えば、述語動詞に習慣を表わす語尾-bukki (HBT) が多用されているが、これはウイльта語の南方方言にみられない形式の一つである。本テキストで確認できる用例 (7)(13)(14)(15)(20)(24)(27)(37)(44)(53)(58) ではいずれもコピュラ動詞の形動詞完了形 bičči- (COP.PRF.P-) を後続して、過去の習慣的行為を表わしている。-bukki (HBT) の数・人称の標示にいくつかのバリエーションがあることもみてとれる。

また、anu (FIL) はウイльта語南方方言にも他のツングース諸語にも対応例がみられるフィラー専用の形式で、言葉に詰まるときや言い方を考えるときの時間稼ぎ、あるいは

¹⁰ 弟は幼くして亡くなった (Bibikova 2009: 33)。本テキストの語りですぐに思い出さなかったのは、そのためだと思われる。

言いたい語の代替として用いられる。本テキストではこの *anu* (FIL) の生産性が顕著である。例えば、(8)(24)(57)では単独（原形）で出現するが、(42)では融合をとまなう動詞変化をし、(54)では名詞変化をしている。このように変幻自在とも思われるフィラーのふるまいを観察できるのも、自然な談話テキストの特長ではないだろうか。

4.2 文化についての考察

最後に、文化について、本テキストから考察できることを述べる。本テキストがウイльтаの文化が家庭内で伝承された最後の時期（1950 年前後）のようすを口承した資料であることは、上述（1.1）のとおりである。それを踏まえて、以下、①名前、②トナカイ飼育における女性の役割、③文様づくりや針仕事、について短い考察を加える。

まず、①名前について、かつてウイльтаの個人名¹¹には *doowu gəlbuni*「内側の名前」（本名）と *ojuu gəlbuni*「うわつらの名前」（俗称、あだ名）の 2 種類があったとされる（池上 1997ab、山田 2016a: 149）。一つめの「内側の名前」は各人の尊厳を秘めた大切な本当の名前であり、自分も他人も軽々しく口にしなかったという（池上 1997b）。それに対して、気軽に使える呼び名を「うわつらの名前」という（*ibid.*）。しかし、20 世紀前半にはすでにロシア名や日本名が与えられて定着し、そちらが（戸籍やパスポート等に用いられる、公式な）「本名」となり、かつての伝統的な名付けの慣習は影を潜めていった。第二次世界大戦後にはウイльта名を付けることすら珍しくなったとみられる。近年のサハリンに暮らすウイльтаでロシア名とは別にウイльта語の名前を持つという人を、筆者は一人しか知らない。

本テキストでは、語り手の母（ロシア名：アンナ B. ボリソワ）のウイльта名として *xumuraanji*「フムラーンジ」と *korgolji*「コルゴルジ」という名前が紹介された。もし 1950 年前後のサハリン北東部にウイльтаの伝統的な名付けの慣習が残っていたとすれば、少なくとも後者「コルゴルジ」は「うわつらの名前」であろう。(7)～(14)で多くの人びとが彼女を「コルゴルジ」と呼んだと述べられているからである。一方、前者「フムラーンジ」が「内側の名前」「うわつらの名前」どちらであったのか、確かめることはできない。1940 年生まれの語り手（ロシア名：エレナ A. ビビコワ）は、かつてのウイльтаの名付けの慣習、ないし「内側の名前」ならば軽々しく口にしないといった観念を持たず、伝統的な区別をしないためである。

②トナカイ飼育における女性の役割について、本テキストによると語り手の母は自らトナカイの世話をし、騎乗も巧みにこなしたという（(20)～(28)参照）¹²。当時はまだ女性がトナカイ飼育業の主体者として関わっていたことの、一つの証言といえる。（上述の

¹¹ ここでいう個人名は、氏族名や家族名（ファミリーネーム）および父称（ロシアではミドルネーム）とは異なり、あくまで一人一人個別に与えられる名前のことを指す。

¹² ウイльтаのトナカイ飼育は、主として荷物の運搬や移動の効率化を目的とする。ウイльтаにとって飼育トナカイは（屠畜や搾乳の対象とする）「家畜」というより「使役獣」であり、飼育者の技量はトナカイをうまく使役できるかどうかにかかっている。語り手の母がトナカイをうまく操って騎乗したまま橋を渡ったということ（(24)(27)）から、彼女がいかに優秀な飼育者だったかがわかる。

とおり、1960年代以降には集住化のため女性たちは村に移され、トナカイ飼育の現場から遠ざけられる。) また、トナカイ飼育業のかたわら母が作った靴¹³を村々で売って金銭を得、それで食料品を買っていたことが(50)～(54)で語られている。家族を養っていくため、女性ないし母親が、生業活動においても副次的な経済活動においても、重要な役割を果たしていたことが読み取れる。

③文様づくりや針仕事についても、断片的ではあるが貴重な情報が含まれている。語り手の家庭では、母親が靴の型をとって生地(皮革など)を切り、娘が所定の位置に自分で作った文様を自分の好きな色で刺繍し、そのあとに母親が縫製して靴に仕上げる、というふうに分担して、売り物用の靴を量産していた。語り手は幼少時から想像力が豊かで独創性があり、よく母親からそのことを褒められたという(ビビコワ p.c.)。母親は、一連の作業のなかでも特に独創性を必要とする文様づくりや刺繍を分担させることで娘の才能を伸ばしつつ、靴の生産効率を上げ、結果として伝統的な技術を次世代へ継承したのだと思う。その技術は、語り手の娘であり芸術家のヴェロニカ V. オシポワ(Veronika V. OSIPOVA)など、「孫」世代にまでしっかりと受け継がれている。

謝辞

* 本研究の調査に応じてくださったエレナ A. ビビコワさん、そして本稿の作成にあたり貴重なご指摘をくださった2名の査読者に感謝申し上げます。なお、本稿は科学研究費補助金特別研究員奨励費(課題番号21・2110)、独立行政法人日本学術振興会優秀若手研究者海外派遣事業(2010年度)による成果の一部である。

略号一覧

-: 形態素境界 / =: 倚辞(クリティック)境界 / +: 融合 / #: 言い誤り、言いよどみ / 1: 一人称 / 2: 二人称 / 3: 三人称 / ABL: 奪格 / ACC: 対格 / ADJ: 形容詞派生接尾辞 / CVB: 副動詞 / COOR: 同時 / COP: コピュラ動詞語幹 / DAT: 与格 / DIR: 方向格 / EMPH: 強調 / EXC: 感嘆 / FIL: フィラー / HBT: 習慣 / IM: 不完了 / INS: 道具格 / INTJ: 間投詞 / ITER: 多回 / LIKE: 類似「～のような」 / LOC: 場所格 / NOM: 主格 / OBL: 斜格 / P: 形動詞(動名詞) / PERS: 名詞派生接尾辞「～(する)人」 / PL: 複数 / PRF: 完了 / PRL: 沿格 / PROP: 所有「～持ちの」 / PTCL: 付属語または小詞 / REF: 再帰所有 / SG: 単数 / SIM: 同時 / TR: 他動詞化接辞 / VLZ: 動詞化接尾辞 / WHQ: 疑問詞疑問

参考文献

- 池上二良 1994 「ウイльта語の南方言と北方言の相違点」『北海道立北方民族博物館研究紀要』3: 9-38 [2001
『ツングース語研究』: 247-283, 東京: 汲古書院].
池上二良 1997a 『ウイльта語辞典』札幌: 北海道大学図書刊行会.

¹³ なお、ウイльта語で(35)の *utta* (boots) が伝統的な靴(特に長靴全般)を指す固有語であるのに対し、(37)の *tuupula* (shoe) や(42)(45)の *taapočika* (indoor.shoe) はどちらもくるぶしより下の短靴で、ロシア語 *tufija*, *tapuchka* からの借用語である。自分たちの生活用品でなく、売り物として製作するタイプの靴にロシア語からの借用語があてられていることがわかる。

池上二良 1997b「ウイльта語の人名：尊厳を秘めた本名 軽々しく口にせず」『北海道新聞』1997年5月7日夕刊4面.

風間伸次郎 2011「ウイльта語調査報告」『北方人文研究』4: 51-74.

佐藤チヨ（演唱）／池上二良（採録・解説）／山田祥子（編訳）／E. ビビコワ（露訳）／津曲敏郎（監修）
2014『ウイльта長編英雄物語ニグマー：シーグーニ物語テキスト』（ツングース言語文化論集 58）札幌：北海道大学大学院文学研究科.

山田祥子 2013「ウイльта語北方言の文法と言語接触に関する研究」北海道大学大学院文学研究科博士学位申請論文.

山田祥子 2015「ウイльта語北方言テキスト：人喰いお化けの話」『北方言語研究』5: 261-280.

山田祥子 2016a「内側の名前 ウイльта語」岩波書店辞典編集部（編）『世界の名前』（岩波新書（新赤版）1598）pp.147-149, 岩波書店.

山田祥子 2016b「ギシクタウダ（マリーヤ・ミヘエワ）の生涯：ウイльта語北方言テキスト」『北方言語研究』6: 179-201.

山田祥子 2021a「ウイльта語北方言テキスト：スドゥラーの作り方」津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会（編）『津曲敏郎先生古稀記念集』津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会, pp.163-170.

山田祥子 2021b「バーバ・カーチャと私：エベンキのトナカイ牧舎 E. A. ボリソワさんから教わったこと」北海道立北方民族博物館（編）『北海道立北方民族博物館第36回特別展図録：トナカイと暮らすタイガの遊牧民たち』pp. 24-30. 網走：北海道立北方民族博物館.

Bibikova, E. A. 2009 “Vspominaniya”. T. P. Roon et al. (eds.) *Ujl'ta Evenki. Juzhno-Sakhalinsk: Sakhalinskij gosudarstvennyj oblastnoj kraevedcheskij muzej.*

Ikegami, J. 1974 “Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprachen”. *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker, Protokollband der XII. Tagung der Permanent International Altaistic Conference 1969 in Berlin.* pp.271-272. Berlin: Akademie-Verlag [2001『ツングース語研究』: 395-396, 汲古書院].

Ikegami, J. et al. 2008 *Uiltadairisu: Govorim po-ujl'tinski. Juzhno-Sakhalinsk: Saxalinskoe knizhnoe izdatel'stvo.*

Roon, T. P. 1996 *Ujl'ta Saxalina: Istoriko-etnograficheskoe issledovanie traditsionnogo xozhajtva i material'noj kul'tury XVIII – sere diny XX vekov. Juzhno-Sakhalinsk: Saxalinskoe knizhnoe izdatel'stvo/ Sakhalinskij gosudarstvennyj oblastnoj kraevedcheskij muzej.*

Sakhalinskaja Energija [=Sakhalin Energy Investment Company] 2022 “Istorija KMNS Saxalina”. *Plan sodejstvija razvitiju korennyx malochislennyx narodov Severa Saxalinskoj oblasti* [=SIMDP: Sakhalin Indigenous Minorities Development Plan].

<http://simdp.com/?id=97&pid=2> （最終閲覧日：2022年11月30日）

執筆者紹介

氏名：山田祥子（やまだ・よしこ）

所属：室蘭工業大学ひと文化系領域

Email：yamada@mmm.muroran-it.ac.jp